

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	21733000043		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス宮川		
所在地	飛騨市宮川町巣之内63		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2173300043-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが、今まで生活してきた環境と似た環境で穏やかに、リラックスした生活が送れるよう支援している。認知症の進行が少しでも遅くなるようプリント等で脳トレーニングを行ったり、毎日、10時と15時にはテレビ体操、リハビリ体操を行い、転倒防止に役立っている。畑には野菜を植えて収穫したり、花を植えて楽しんでいる。時には、温泉、買い物、喫茶店等に出かけて、利用者が楽しく過ごせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、生まれ育った地域の思い出を大切に、安心して家庭的な生活を送っている。管理者と職員は、日々、利用者家族と深い信頼関係を築きながら、利用者の生きる力を家族と共に支え、利用者が、穏やかな生活を継続できるように支援をしている。毎年、ユニークな取り組みとして、家族の協力を得て、公共機関(JR)を利用した、小旅行を実行している。さらに、身体機能の維持向上のため、リハビリ体操や、脳を活性化するためのトレーニングを取り入れ、介護度の維持と進行の抑制につなげている。職員は、学習意欲を持ち、専門性を磨き、質の高いケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初の理念「生まれ育った地域の思い出、生い立ちを考慮しながら、残された能力を引き出し、余生を楽しく過ごしてもらおう」引き続き、この理念を共有し日々の介護の実践につなげている。	利用者が、安らぎを感じ、余生を楽しく過ごすことができるように実践をしている。理念の意義や支援のあり方を、常に振り返り、気づきを話し合い、職員間で共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は民家、集落と離れていることもあり、近所付き合いは行ないにくい状況で、事業所自体が地域の一員として日常的に交流することは殆ど無い。	地域の伝統ある行事に参加をしている。また、地域の子どもたちが訪れたり、小学校行事に招待を受けて、参加をしている。広場で、地域の高齢者と交流したり、ボランティアの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方々の支援は実践を積んできているが、その実践経験を地域の高齢者や家族の方々に還元するまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族、行政、地域の方々に出席して頂き、事業所の方針、利用者の状況等を報告し、出席者から意見を頂き、サービス向上に活かしている。	会議は、定期に開催している。利用者の状況を報告し、行政担当者からは、介護保険の改正や入居要件の変更などで説明を受けている。事業所の行事やサービスの取り組みなどを提案し、運営に反映させている。	会議には、地元の代表や各種団体などに、参加を働きかけ、地域高齢者の課題にも貢献できるように期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加していたことで、事業所の実情、抱えている課題等について伝える事ができ、また、市の主催する会議に出席し、市の方針等について理解を深めている。	行政とは、常に連絡を取り、困難事例や法改正についての助言を得ている。担当者が、運営推進会議に出席した際、事業所の実情や課題を伝えている。行政主催の会議や研修会に出席し、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという共通認識を持ち、利用者の人権を守りながら、ケアに取り組んでいる。ただ、利用者の安全確保の為にやむを得ない場合も、時にある。	身体拘束ゼロのケアを実践している。やむを得ない場合を想定し、創意工夫しながら、一時的な対応策となるよう学習を重ねている。また、言葉による抑制で心の拘束につながらないように、常に穏やかな態度で支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一人ひとりを人として大切に、虐待防止に努めている。自分たちの行なっている介護行為が虐待につながっていないかどうか話し合い、見過ごす事の無いよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護に関する制度の活用などについての認識は薄いので、今後、学習会等で理解を深めて、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際には、重要事項、運営規定等を丁寧に説明し、利用者や家族等の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来所された時や、運営推進会議や行事に参加された際に、家族の意見や要望を聞いたり、アンケート等を通じて幅広く意見を伺い、それらを運営に反映できるよう努めている。	年度初めに、利用者、家族との懇談会を設け、年度末には、反省会を開いている。運営推進会議や面会時、アンケートでも意見や要望などを確認している。また、家族と共に行う遠方への外出計画などを話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と直接意見交換する場は無く、職員の提案、意見は反映される事は少ないが、職員同士はミーティングをして意見交換を行い、運営向上に努めている。	管理者を中心に、随時、ミーティングを行っている。利用者サービスの課題や設備・器具の改善、勤務調整など、要望や意見を受け、利用者の安心な暮らしと、職員の働く意欲の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が実際に働いている現場を代表者が見る機会は殆どなく、職員個々の勤務実態の把握は十分とは言えず、職場環境の整備、処遇改善の対応は遅れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修は不十分で、また、外部団体主催の研修にも中々出席できず、系統だった職員育成の取り組みは不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の場を持つことは地理的な問題があり充分とは言えない。今後、相互のサービス向上や連携を持つため交流会等の企画を検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人の日常生活の様子、困っている事、要望をしっかりと聞き取って不安解消を図り、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とできるだけ多く面談を行い、今までの介護の状況や苦勞、不安な事などを聞いて、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入にあたっては、本人や家族の実情や要望、前任ケアマネジャからの情報も加味し、何が必要かを見極め、サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と同じ目線に対応し、その人の「人となり」を把握し、職員間での意見交換を通じ共通認識をもって、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族と共にそれまでに培ってきた関係性を踏まえながら、施設利用後も、両者の関係が疎遠にならないように、面会や外出等で楽しい時を作ってもらっているようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の文化祭に出向いたり、地域との関係(人、場所)が途切れないように、家族と協力し懐かしい人に会ったり、馴染みの場所に行けるよう支援している。	広場でスポーツを楽しむ住民と馴染みである。地元の文化祭や小学校の行事、神社などへ出かけている。家族や親戚の訪問時に、買い物や喫茶店に出かけ、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよし悪しなど利用者同士の人間関係に注意を払い、関係が悪化する恐れのある場合などは職員が間に入り、未然にトラブルを防止し、穏やかに過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動したり、退所して自宅へ帰った場合にも、早い段階から経過を見守ったりフォロー等で、支援の継続性を図っているが、時の経過と共に関係は薄くなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が日々の介護の中で、利用者一人ひとりの思いや希望、意向をくみ取るよう努め、職員間で意見交換を行い、利用者の視点に立った介護に努めている。	契約時に、本人情報を家族から得ている。入居後は、利用者との会話や、様々な介護の場面で、思いや意向を把握している。会話が困難な場合は、表情から気持ちを汲み取り、希望や意向を、日々の暮らし方に反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の介護の何気ない会話の中で今までの生活歴、暮らし方、家族の事等を聞き、プライバシーに配慮しつつ信頼関係を築き介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の様子、心身状態をサービス経過記録等に記録し、その情報を職員全員が共有し、総合的に把握し利用者の残された能力等の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、それぞれの担当者がモニタリング評価を行い、また、本人・家族の思いや要望等を聞き課題等を検討し、臨機応変に現状に適した介護計画になるよう努めている。	本人・家族から、ケアの意向や希望を聴いている。加えて、介護記録を基に検証し、職員の意見や気づきも取り入れ、介護計画を作成している。その人の生きる力を支え、健康が維持できるよう、計画作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践、気付いた事等を経過記録やあるいは特記事項は個人ノートに記載し、介護の実践や計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのいろいろなニーズに応じて、外出支援や、時には通院、受診の世話をしたり、買い物支援、出張理容等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会と花火をしたり、老人会と交流したり、地元の文化祭、芸能祭、運動会を見たり、また、ボランティアで踊りや歌、落語等の訪問を受け、楽しい時間を過ごせるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の定期受診や、また、利用者一人ひとりの従来からの受診も含め、病状の変化や内容に応じて他医療機関、専門医への受診にもスムーズに対応できるよう体制は整っている。	かかりつけ医は、個々に継続をしている。定期的に、協力医の診察を受け、歯科の訪問診療がある。他の専門機関の受診や急変時の支援体制を整え、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の介護の中で、利用者一人ひとりの気づきや変化等を捉え、その様子を適確に看護職に伝え、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には安心して治療が受けられるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者とは綿密に情報交換を行なっている。退院以後の生活にもスムーズに移行できるよう協働体制は取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で当施設では看取りはできない旨を家族へ説明し了承を得ている。重度化や終末期に至る過程へのケアについては、施設で出来る範囲を説明し、家族や医療機関等の協力を得ながら、後の対応を検討している。	入居時に、重度化や終末期の方針を、本人、家族に説明し、同意を得ている。早い段階から、関係者で十分に話し合い、ホームでの生活が困難な場合は、指定医療機関へ円滑に移動できるよう、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルは作成し対応はしているが、それに即した訓練の機会は少なく、全職員が初期対応等の実践力を身につけているとは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震時の対応を協議し、消防署の協力も得ながら、年2回訓練を実施している。職員、利用者の家族も含めた夜間の召集訓練は不十分であり、地域との協力体制も充分とは言えない。また、物品等の準備も充分でない。	災害訓練は、消防署指導の下、夜間想定を含めて実施をしている。避難誘導、器具の取り扱い方、通報等の訓練を行っている。備蓄の確保と必要な機材の整備や、地域の協力体制を得られるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者の誇りやプライバシーについて具体的に確認しあい、統一した対応をするように努めている。	利用者を人生の先輩として敬い、自尊心を損ねない態度や言葉かけに努め、穏やかな態度で接している。トイレや入浴の際、利用者のプライバシーを確保し、おむつ置き場なども、細かな配慮をする工夫がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の行動が自己決定ではなく、職員の誘導で行なわれていないか、常に考える必要があり、利用者の思いをどれだけ引き出せるか介護力が問われている。介護力の向上に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、一人ひとりのペースやその日の体調を大事に考え、その日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣替えをして、身だしなみやおしゃれに関心が持てるよう雰囲気作りに努めている。また、3ヶ月に1度位のペースで、利用者全員出張理容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で採れた野菜や山菜等を提供し、季節感を味わってもらっている。食材はその人に合わせて細かくしたり、好き嫌いのある人には無理強いをせず、替わりの食材を提供している。屋外の食事で気分転換を図っている。	事業所の畑で採れた野菜も、食材に利用している。食事は、利用者と職員が共に食べ、美味しさや楽しさを共有している。利用者は、食事の準備や片付けなどを自然に手伝い、時には、屋外の食事会も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された献立により栄養バランスは取れている。食事のお茶、入浴前後の水分補給、また、就寝時にはお茶をペットボトルに入れて部屋まで持って行っていただくたりして、水分補給には特に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの呼びかけ、困難な利用者には職員が介助し、口腔内の清潔を保つように努めている。また、出張歯科診療も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自力排泄を目指しているが、便や尿の感覚が解らない利用者には、時間を決めてトイレ誘導を行い、自力排泄の支援を行っている。また、2階トイレにはブザーを設置して、緊急対応にも応じている。	排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせ、声かけ誘導で、排泄の自立を支援している。自然な会話の中で、さりげなく声かけし、トイレへ誘導している。夜間は、希望者がポータブルトイレを利用し、見守りで対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探りつつ、消化の良い食事や水分補給などに配慮し、運動する事で腸の働きを促し、便秘の予防や改善に取り組んでいる。また、改善の困難な方には、医師と相談し、下剤の服用も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番楽しみにされる時間なので出来るだけ本人の希望を聞いて、ゆったり入浴できるよう支援している。また、年2回、温泉を利用している。	利用者の希望や体調にあわせ、楽しい入浴を支援している。その人の習慣や湯加減をあわせ、ゆったりと時間をかけている。年間行事で、近隣の温泉へ出かけることが楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを大切に、その時の利用者の状態を考慮しながら、休息や睡眠できるよう支援している。特に昼食後は少し、昼寝してもらい、夜はグッスリ眠り、生活リズムが保てるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はそのつど本人に渡し服薬を確認している。薬の変更時には変更理由、留意点を往診ノートに記載したりあるいは服薬一覧表を作成し、一人ひとりが服用している薬を把握し、情報の共有化努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除、施設内の清掃の役割分担等で、人の役に立てる喜びを持ってもらえるよう支援したり、計算・漢字プリントもその人にあつたものを渡し、やる気を引き出せるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な介護の中では施設周辺の散歩、散歩をしたり、年間の行事としてバス、公用車、ジャンボタクシー等を利用して遠方への外出を行なっている。家族と一緒に出かけるの本人にとって一番嬉しいようなので、極力家族の協力を頂いている。	個々の希望にあわせ、庭での外気浴や周辺を散歩している。地元の行事や神社参り、喫茶店などに出かけている。また、年間行事として、家族の協力を得て、自動車やバス、タクシーなどで遠方へ出かけ、利用者の楽しみと満足感につなげている。	飛騨市の介護サーポーター制度が、発足して動き始めている。その制度の有効活用に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人もあるが、個人で買い物に出る事は無い。施設の行事として買い物に行く時には、決まった金額の中で欲しいものを買ひ、しかも出来る方は自分で支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら手紙を書ける人もある。電話のやり取りの困難な方には、職員が取り次いで用件を伝えたり、出してもらう事もたびたびある。手紙等の郵便物の投函も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は畳スペースを作ったり、ソファを並べたりして、気の合ったもの同士が気楽に過ごせるように工夫している。また、自然光を取り入れ風通しを良くし、温度調節にも気をつけている。金魚やメダカを飼って楽しんでもらっている。	共用の窓からは、季節の移り変わりが見える。壁には、刺し子や貼り絵を飾り、畳の間やソファでは、気の合う利用者同士が、ゆったりと過ごしている。また、郷土の民芸品や、金魚、メダカの水槽を置き、生活感のある空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、1人にもなれるよう玄関先や2階にソファ、椅子を置いたり、また、気の合った者同士が気楽に過ごせたり、話し合ったりする事ができるよう、テーブル席の座る場所を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、本人が使いやすく、快適に過ごせるよう家具や寝具を配置したり、部屋の整理整頓の手伝いをし、一番安らげる場所で、リラックスして生活できる環境となるよう支援している。	各居室には、非常時に持ち出す避難袋を備えている。整理タンスやベッドを、使いやすく設置し、思い出の作品や家族の写真、季節の花などを飾り、快適な生活環境を整えながら、安らげる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「分かること」を活かし安心、しかも自立した生活ができるよう施設内の整理整頓を心がけたり、手摺りなどを取り付けたり、危険なところにはクッション、柵をする等いろいろ工夫している。		